

参勤交代（江戸から萩まで）



* 毛利家文庫48 下向14 (23 の6) 「御帰国沙汰控」

解説

1635（寛永12）年、3代将軍徳川家光は、武家諸法度を改定し参勤交代を義務付けました。これにより、大名は1年ごとに領地と江戸の間を往復することになりました。

写真は、1752（宝暦2）年、7代萩藩主毛利重就が初入国した時の江戸から萩までの道中の記録です。

写真上段はその時の宿泊地で、これによると、4月28日に江戸を発った一行は、河崎（川崎）、戸塚、小田原と東海道を進み、その後山陽道、萩往還を通り、ひと月余りをかけ6月1日に萩に到着しています。

この間の行列の編成は一樣ではなく、江戸～大阪間、大阪～三田尻間、三田尻～萩間とでは編成が変えられました。写真下段は三田尻～萩間の様子です。「押御中間」を先頭に、総勢549名の行列でした。